

I 令和6年度 富士宮市立北山小学校 学校経営方針



1 学校経営目標

子供の笑顔があふれ、保護者に信頼され、地域が誇れる学校

○私たちは、北山小学校の子供たちが笑顔で通える学校にします。

笑顔のためには、まず、学校が楽しいところでなければなりません。

そのために、分かりやすい授業、友達との学び合い、たくさんの体験活動、盛り上がる学校行事、一人一人が活躍できる場などを私たちは提供します。

次に、学校は安全・安心な場所でないといけません。

子供たちが周りの人にいたずらに傷つけられることがないよう、集団を育て、困ったことがあったらすぐに教師に相談できるような体制をつくります。いじめや不登校のない学校にします。他人の笑顔を奪うような行為に対して厳しく指導もします。

もちろん、笑顔のために毎日をおもしろおかしく生きていこうということでは決してありません。たとえば、アスリートたちがやりきったときに見せる笑顔は特に美しく感じるのはなぜでしょう。その笑顔には、歯を食いしばって、つらいことにもくじけずに耐え抜いた努力があるからこそ、輝きを感じるのです。できなかったことに何度も何度も挑戦して、ついに成功させたとき、日常の笑顔とは違う心の中から沸きあがってくる最高の笑顔になるはずです。私たちは、子供たちがそんな笑顔になれるような負荷をかけていきます。もちろん、乗り越えられるハードルの高さは一人一人違うと理解し、個別に支援していきます。そして、成功体験を積み重ねて成長させていきます。



○私たちは、保護者や地域から信頼される学校にします。

「学校のことは先生に任せておけば間違いない。」そう思ってもらえる頼りがいのある教職員集団を目指します。

子供を指導するのが教師の仕事ですが、教師の価値観を押しつけるのではなく、子供を理解し、保護者の思いを理解し、適切な指導を行います。また、家庭との連絡を密にして、家庭と学校が共同して子供を育てていきます。地域の方々にも子供の育成に協力していただくよう、頻繁に学校の情報を発信していきます。

残念ながら教職員の不祥事が続いています。私たち北山小学校職員は、保護者や地域の皆さん、そして子供たちの期待を裏切らないように、不祥事を絶対に起こしません。

○私たちは、子供たち、保護者や地域の皆さんが誇れる学校にします。

北山小学校をみんなが自慢できる学校にします。たとえば、コロナ禍でも、新体力テスト優秀校の受賞をしたこと、常にオンライン授業が選択可能な状態にあることなど自慢できることは数々あります。地域の方は、新聞に北山小学校の名前が出ることを心から喜んで下さるので、私たちは、他校と違う魅力をたくさん創造し、発信していきます。ちなみに、令和5年度はホームページの閲覧回数が1年間で48万回以上もありました。



2 学校教育目標

自ら学び、人とのかかわり、よりよい未来をつくる子

目指す子供像 「かがやく北山っ子」

「自立」自ら学ぶ力 「共生」自らかかわる力 「創造」自らつくる力

「北山っ子」は、毎朝どの子も生き生きとしたあいさつをしてくれます。授業にも落ち着いて取り組み、自信を持って自分の考えを発言できる子がたくさんいます。他人に迷惑を掛けたり、傷つけたりすることもほとんどありません。コロナ禍でも、子供たちが活動を工夫して、休み時間も楽しく過ごしていました。現在でも、創意工夫ある活動がたくさん見られます。

そんな子供たちですが、課題がないわけではありません。

1つめは、創造性を伸ばすことです。言われたことはしっかりできる子が多いけれど、自分からやりたいことに取り組む主体性をもう少し伸ばしたいです。失敗を恐れず行動

する勇気を育てていきたいと思います。そのためには、何かを一生懸命に覚える学びから、何かを創り出すことができる学びにシフトしていかなければなりません。クリエイティブな子供を育てるためにはどうしたらよいかを考えて取り組んでいきます。

2つめは、6年間で自立を目指すことです。忘れ物や宿題忘れをなくすこと、インターネットやゲームの誘惑に負けず、遊ぶ時間の自己管理ができるようになることを目指します。私たちの「忘れ物をしない」、「宿題を必ずやる」という指導は、子供たちに「自分のことは自分でやる」という自立を促す指導の一つです。

そこで、令和6年度の北山小学校の学校教育目標は、昨年度と思いは変わりませんが、言葉をより簡単にした「自ら学び、人とかかわり、よりよい未来をつくる子」としました。これを、短い言葉で言えば、「自立」「共生」「創造」です。

まずは、自分の力で課題を解決できる力を身に付けます(自立)。しかし、自分の力だけでは解決できない困難な課題もあります。そんな時は、他の人と力を合わせることが必要です(共生)。そして身に付けた力を活用して、先が見通せない時代も頼もしく切り拓いて、よりよい未来を創ってほしいと思います(創造)。

「学び」が変わります

かつて、授業は教師が主体的に一生懸命に子供たち知識を教えていました。その知識をたくさん覚えた子供が、テストでよい結果を出し、よい評価をもらってきました。しかし、その後、知識よりも重視されているのは、考える力や表現する力に変わってきました。その考える力は、友達と対話をしていくことでどんどん深まってよりよい考えになっていきます。そして、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるために表現力が重要とされてきています。さらに、この先の教育は、みんなで同じことを同じペースで学ぶのではなく、一人一人が自分で学習をデザインして、一番よいと思う自分に合った方法でそれぞれが学んでいくようになると考えられます。すなわち、学習の主導権が教師から子供に渡されるようになります。その時代(2030年)を視野に入れながら、北山小学校では「学び」を改善していきます。

さらに、デジタルとリアルの組み合わせによる「主体的、対話的で深い学び」の一体的充実を実現させていきます。(令和5・6年度富士宮市教育研究指定)

(1)「自立」自ら学ぶ力・・・自分の力で課題を解決する子

○「一人学びできる力」を育成します。

- ・学び方を学びます。
- ・家庭学習・自主学習の習慣を定着させます。
- ・誰一人取り残さないよう教師が個別に支援します。

子供が進んで学習に取り組むようになるためには、学習の進め方を理解している必要があります。コロナで休校になったときに分かった課題は、与えられないと勉強できないことでした。これからは、教材に出会ったとき、どうやってゴールまで行くか、自分で解決方法が見えるように、学び方を学んでいくようにします。

私たちは、「個別最適な学び」を実現するために、一人一人に合った課題や追究方法を支援します。そして、「一人でもできる」という「学習の自立をめざしていきます。

家庭学習は、読み・書き・計算の基本的なものだけでなく、やりがいを感じる課題に取り組ませたいと考えています。また、家で考えたこと、準備したことが生きるような授業を教師が構想します。授業で活躍できた喜びが、さらなる頑張りにつながっていくと考えるからです。AIドリルも活用して、子供に力を付けるための家庭学習を研究していきます。また、自主勉強は、テーマを決めず、子供の自由な発想に任せてやってみたいと考えています。

○「ICT活用力」を育成します。

- ・低学年…操作できる
- ・中学年…考えを入力できる
- ・高学年…工夫できる



北山小学校では、令和3年度から、GIGAスクール構想実現のため配付された一人一台パソコンを活用した授業に取り組んできました。子供たちは、あっという間に操作に慣れ、パソコンが文房具のように使用される日も現実的になってきました。低学年ではパソコンの操作に慣れる、中学年ではタイピングして自分の考えを入力できる、高学年では見栄えよく表現できることを目標にしていきます。

○「問いを持ち追究する力」を育成します。

- ・「なぜ」「どうしたら」を考える学習課題を設定します。
- 「知りたい」「やりたい」を実現させる「きたやま学習」にします。
- ・多様な追究方法を身に付けられるようにします。

毎日の授業の学習課題は、「なぜ～なのだろう?」「どうしたら…できるだろう?」などにこだわり、問題解決学習を進めていくことを基本にします。この学習方法が身に付けば、日常生活の中で感じる「?」を自分の力で追究できるようになります。この

追究力を伸ばすことができるのが、「きたやま学習」です。教科書のない総合的な学習の時間は、自由に知りたい疑問を調べることができます。ここで、本やインターネットに頼る調べ方だけでなく、多様な追究方法を身に付けられるように指導します。それによって、子供たちは日常生活の?にも、主体的に調べて、自分で学んでいくようになっていきます。



○「読解力・語彙力」を育成します。

・読書の質を向上させます。

読書量を増やすために朝の活動に読書タイムを週2回(月・金)設定します。また、図書館の利用回数を増やし、月2回のひばり号でも本をたくさん借りるようにします。読み聞かせボランティアに協力していただき、本の楽しさを感じられるようにします。



(2)「共生」自ら関わる力・・・他者と協働して課題を解決する力

○「多様性を認める心」を育成します。

- ・1組と3・4・5組の交流や縦割り活動で異学年交流をします。
- ・道徳で多面的・多角的に考えます。
- ・他者を思い SDGs に取り組みます。

私たちの回りにはいろいろな考え方や立場の人がいることを、日常生活の中で学んでいきます。縦割り活動をすることで、自分より年齢が下の子への優しさが芽生え、3・4・5組の子供と交流することで、他人の困難さを共感できるようになります。もちろん、LGBTQも尊重します。「みんなちがってみんないい」と思える環境をつくっていきます。

なかなか SDGs が自分事にならない平和な環境にいる子供たちです。しかし、世界にはたくさん問題があります。そんな世界に目を向けて、知ること、そして考えることを教師側からも問題提起していきます。



○「協働性」を育成します。

- 協働的な学びの場や体験活動をたくさん設定します。
- 話し合い活動で折り合いの付け方を学びます。

コロナ禍で学校行事も制限されていましたが、子供たちが協力することのよさを学ぶために大切なのは実体験です。そこで、協力を必要とする行事を重視し行います。例えば、運動会、修学旅行、林間学校、フェスタ北山などが考えられます。他にも、クラスごとに協力を必要とするイベントを企画して、協力したから成功したとか、協力したらこんなことができたという達成感を味わってほしいと思います。

その過程で、何度か話し合いをしますが、意見が食い違ったとき、対立したとき、そのまま平行線でいくのではなく、折り合いを付けることを学んでほしいと思います。



○「コミュニケーション力」を育成します。

- 授業の中で活発に対話をします。
- あいさつ自慢の学校をめざします。
- 山宮小とのオンライン交流をします。

教師が問い掛けると、子供たちは挙手をして発言をします。しかし、その発言は教師に向かって答え合わせを求めての発言で、1対1のやりとりで終わってしまうことが多いです。時には挙手にこだわらず、子供たちが自由に発言できるような授業を組み立てていきます。そのためには、教師が存在感を薄くし、子供たちだけで話し合いを進めていくようにします。「○○すればよいと思うのだけど、みんなはどう思う。」「それで、どういうこと？」「～ってことじゃない？」「いや、ちょっと違うんだよね。」「じゃあ、具体的に分かるように教えてよ。」こんなやりとりが学びを深めていくことになります。教師が正解を教えてしまったら子供たちの出番はありません。この時の、思考力と表現力を重視していきます。

また、固定されたメンバーならば安心して話せても、環境が変わると緊張して話せないということはよくあります。そこで、将来北山中で級友になるであろう、山宮小学校の子供たちと、オンライン交流を行っていきます。馴染みのない人たちにも堂々と意見が言えるように場を設定していきます。それを積み重ねていくうちに、山宮小学校の子供たちとも仲間になり、北山中学校での生活が円滑に始められるようにな



ると期待しています。

あいさつ上手な北山っ子です。さらに、あいさつ＋会話ができるよう登下校時に話し掛けていきます。

○「規範意識」を育成します。

- ・約束やルール、法を守る気持ちを大切にします。
- ・自分たちでルールを作ったり、見直したりしていきます。

令和5年度は、子供の交通事故が多発してしまいました。交通ルールを守っていても事故に巻き込まれる怖さも経験しました。最近では、スマホやゲーム機をつかって、悪口を書き込んだりする事例もあります。情報モラル教育を含め、子供が犯罪に巻き込まれないよう規範意識を育てていきます。また、既存のルールでも、問題があれば変えていけばよいし、自分たちでルールを作ることも経験する必要があるでしょう。

(3)「創造」自らつくる力・・・よりよい未来を切り拓く子

○「主体性」を育成します。

- ・子供が企画・運営するイベントを設定します。
- ・「博士」「名人」をめざす。
- ・ボランティア活動や朝運動など頑張る子供を奨励する。

「逃走中」「全校宝探し」「全校かくれんぼ」テレビ番組からヒントをもらって、子供たちが実現させてきました。「こんなことやりたいなあ」と思ったときに、「どうせ学校はやらせてくれないよなあ。」と夢をつぶしてしまわないよう、私たち教員は同じ目線で「面白そうだね。」と言ってあげたいと思います。ただ、北山小で実現させるにはどうしたらよいか、もっと面白くするにはどうしたらよいか、それを考えさせていきます。「やればできる」という成功体験を小学校で味わってほしいです。3・4・5組の北山バーガーの取組はそのよい事例です。

好きなことをとことん追究している子供が登場する「博士ちゃん」という番組を見て、驚いたことはありませんか。彼らは、このまま突き進めば、その道の第一人者まで上り詰めるに違いありません。もし、北山小学校にそういう能力を眠らせている子がいたら、呼び起こしてみたいと思います。いでよ、北山小の博士ちゃん！

すでに、ボランティア精神は、6年生から1年生、2年生に伝播しています。ボランティアは6年生がやるものという今までの慣習を壊して、誰がいつ何をやってもよいと認めていきます。寒風吹きすさぶ中、朝運動に励む子がいるのも北山小です。



○「創造性」を育成する。

- 工夫した面白い係活動や委員会活動にします。
- 創作活動に力を入れる。

集会だけでなく、日々の係活動も当番活動の責任を果たすだけでなく、アイデア満載の楽しい活動を考えて欲しいと思います。各クラスで、みんなを笑顔にするための係活動もあるようです。ニーズを考え、仕事を生み出す経験は、将来起業しようと考えたときに生きてくると思います。

図工や家庭科で作品をつくるときに没頭して取り組んでほしいと思います。集中力、粘り強さ、発想力、様々な生きる力を伸ばすことができるからです。

○「自己調整力」を育成する。

- 体力向上・健康増進に努めます。
- 水曜日に業間運動を実施します。
- 学びや生活の振り返りの時間を確保します。
- 生活習慣(食・姿勢・メディア時間)を自分で管理できる力を付けます。

「早寝・早起き・朝ごはん」「3色そろった食事を」と調査を行っていますがなかなか改善されません。また、授業中の姿勢も「ぴん・ぴた・ぐー・ぺた」の約束が守れていません。そして、子供たちの周りには、誘惑がいっぱいです。ゲームや動画、テレビ、漫画…。保護者からも、パソコンを持って帰ってきてゲームばかりしているという声が届きます。これからの時代を生きる子供たちは、たくさんの誘惑に打ち勝たなければならぬので、強い意志を持たなければなりません。

自分で自分の生活を調整していく力がこれからもっと必要になると考えます。

○「粘り強さ」を育成する。

- めあてや目標を設定して取り組み、達成度を自己評価します。

「主体性」「創造性」「粘り強さ」を育てるのは、とても難しいことです。繰り返し練習して身に付くものでもないように思います。例えば、子供のやりたいようにやらせてみて、それを価値付けてあげることで、「楽しかった。」「またやってみたい。」「今度はこうしよう。」「あきらめないぞ。」という気持ちになると思います。宿題をなしにして、「やりたいことをとことんやる日」があったら、子供はどんなことをするでしょう。一日中、絵を描いたり、読書したり、料理をつくったり、レゴを組み立てたり、父親と釣りをしたり、キャンプをしたり、サッカーの練習をしたり、好きなことなら主体的になるし、工夫もする、何時間でも根気強く集中するのではないのでしょうか。しかし、残念ながら今はまだ、一日中、ゲームをする、YouTubeを見るという子ばかりになってしまっているようです。できれば、人がつくったもので楽しむのではなく、クリエイティブなことに取り組んでほしいのです。ゲームをつくる、映像編集をして動画をつくる側になってほしいと思っています。

まずは、児童会活動、委員会活動、係活動などから創意工夫してユニークな活動をしていきます。お楽しみ会も、入念な計画の基に行えば、主体性や創造性を伸ばす場になります。

かがやきマラソンや体力テストなど、目標を設定してがんばる経験を積み重ねていきます。



このような取組で、北山小学校は

自ら学び、人とのかかわり、よりよい未来をつくる子

を育てています。

